

放射線量測定結果

2011年8月2日 9:00 - 12:00

茨城県立取手松陽高校

〒302-0001 取手市小文間 4770 番地

測定者 茨城県高等学校教職員組合

測定機器 TERRA MKS-05 単位 $\mu\text{Sv/h}$

測定位置 地表面 (丸括弧内は同じ位置の地上1m、角括弧内は50cm)

全体の傾向と特異点

- 屋内は $0.13 \mu\text{Sv/h}$ (校長室 1m) から $0.18 \mu\text{Sv/h}$ (美術室机上)
- 運動場の土は、よく使用される部分 (野球のピッチャーマウンド、サッカーコート、トラックの走路部分) が相対的に低く、 $0.28 \mu\text{Sv/h}$ 程度で、しかも地上1mと地表面での差がほとんどない。まんべんなく放射性物質が堆積していること、踏みならし・地ならしや客土で拡散・希釈されたものと推測される。
- 芝 (雑草まじり) はよく使用されるハンドコートは $0.32 \mu\text{Sv/h}$ と低いが、全般に土よりかなり高め。放射性物質が芝・草に付着していること、裸土のように拡散しないためと推測される。
- アスファルト・一部タイル貼り・コンクリートの前庭・建物周辺は高さ1mでは全般的に $0.22 \mu\text{Sv/h}$ 前後で土より低めにみえるが、地表面を詳細に測定すると、あらゆる隙間や継目に土・砂粒がつまり、高線量となっている。煩雑さをかえりみず高さ1mの測定値を併記したのは、このようなミニ・ホットスポットは高さ1mの測定では決してわからないことを示すためである。
- 雨樋から地面に流れる部分は高線量となる。体育館雨樋は暗渠に流れるようになっているが、東側では縦樋の下部が錆びて雨水が地表に流出している。広大な大屋根の放射性物質が大量に流下・堆積し、著しい高線量の泥溜まりとなっている。このような場所では例外的に高さ1mの線量が $0.36 \mu\text{Sv/h}$ と他の $0.22 \mu\text{Sv/h}$ 前後との差が目立つようになる。正門東の前面道路の側溝の1m線量が高いのも同様の理由だろう。なお、このような舗装面や側溝は、泥や砂粒をかき集め撤去することで容易に除染可能である。

